

2015年4月10日

公益財団法人 吉川英治国民文化振興会
株式会社 講談社

「吉川英治文庫賞」創設のお知らせ

公益財団法人 吉川英治国民文化振興会は、講談社の後援を得て、来年（2016年）、吉川英治文学賞・吉川英治文化賞が、第50回の節目を迎えるのを機に、吉川英治の名を冠した新しい賞を創設します。

シリーズ大衆文学作品とその著者を顕彰するもので、「吉川英治文庫賞」という名称にいたしました（正賞は銀杯、副賞100万円）。

●新賞創設の主旨

近年「シリーズ大衆文学作品」が隆盛ですが、刊行が複数年にわたるシリーズ作品は、これまでの文学賞の評価の枠組みでは、顕彰しきれないこともありました。

いっぽう吉川英治は、大長編も多く著した大衆文学の代表作家です。優れたシリーズ作品を顕彰するときに、吉川英治という名こそ、もっともふさわしいと考えます。

●対象となる受賞者と受賞シリーズ作および選考方法（詳細は別紙参照）

複数年にわたり、5巻以上の複数巻の文庫が刊行されている大衆シリーズ文学作品と、その著者です。12月1日から翌年11月30日までに、文庫最新巻が刊行された作品のなかから、受賞作品を決定いたします。

シリーズ作品の顕彰ということから、従来の文学賞とは違う選考方式を採用します。具体的には、50名程度の選考委員に選考を委嘱し、候補作の推薦および受賞作の選出投票をお願いする方式です。

約50名の選考委員は、講談社を含む出版社からの代表者（各社1名）、識者、出版流通関係者で構成します。

●立会人

選考委員に加えて、二人の立会人に、最終選考の開票に立ち会っていただきます。

第1回は、森村誠一氏と、吉川英治国民文化振興会・吉川英明理事長に、立会人を依頼しました。第2回以降は、森村誠一氏と、前年の受賞者をお願いする予定です。

●受賞者・受賞作品の発表と贈呈式

吉川英治文学賞、吉川英治文学新人賞、吉川英治文化賞と、同時とします。

*吉川英治文庫®は、講談社の登録商標です

●この件に関するお問い合わせは講談社広報室TEL03-5395-3410まで

2015年4月10日

公益財団法人 吉川英治国民文化振興会
株式会社 講談社

吉川英治文庫賞リリース・補足資料（別紙）

●受賞対象となる受賞シリーズ作品と作家について

- ・複数年にわたり、5巻以上の複数巻で文庫刊行されている大衆シリーズ小説とその著者。12月1日～翌年11月30日に「シリーズ最新文庫」が、刊行されていること。
- ・ジャンルは問わない。
- ・初出の判型は、問わない。文庫書き下ろし作品に限定しない（ただし、文庫化の時期によって選考の対象とする。たとえば、単行本・ノベルスで6巻以上刊行されている作品は、5巻以降の文庫が刊行された時点で選考の対象とする）。
- ・完結、未完結は問わない。
- ・新装復刻版、他社で一度文庫化され別の社で文庫化された作品（いわゆる二次、三次文庫作品）は対象としない。
- ・翻訳作品は対象としない。コミックは対象としない。
- ・過去に吉川英治文学賞を受賞した作家は、対象としない。
- ・複数の出版社にまたがって刊行されているシリーズ作品は、対象とする。

●選考委員（50名程度）の構成について

- ・①趣旨に賛同いただいた出版社から代表各1名、②書評家・識者、③出版流通関係者。
- ①②③の割合は、おおむね3分の1ずつとする。講談社代表1名も①に入る。

●立会人について

- ・シリーズ作品に理解の深い識者1名と、前年の受賞作家。
- ・初年度は、森村誠一氏と、吉川英明理事長を立会人とする。

●選考の流れ

- ・選考委員には、第一次投票、第二次投票の二回の投票をお願いする。
- ① 1月末までに第一次投票で、候補作を決定（2月上旬、候補作発表）
 - ② 2月末までに第二次投票で、受賞作決定（3月上旬、吉川四賞同時発表）

*対象作、選考方法などは、3年ごとに、見直しの検討をする。

以上

●この件に関するお問い合わせは講談社広報室TEL03-5395-3410まで